

令和7年度

家庭ごみ及び事業系ごみ組成分析調査結果報告書

令和8年3月

苫小牧市ゼロごみ推進課

--- 目 次 ---

1.	目的	P 1
2.	調査の概要	P 1
	(1) 家庭ごみ	
	①調査対象	
	②調査方法 (戸別収集は若干異なる)	
	③分析項目	
	(2) 事業系ごみ	
	①調査対象	
	②調査方法	
	③分析項目	
3.	家庭ごみの分析結果	P 2
	(1) 燃やせるごみ	P 2
	(2) 燃やせないごみ	P 3
	(3) 資源物	P 4
4.	事業系ごみの分析結果	P 5
5.	まとめ	P 6

1. 目的

家庭ごみ及び事業系ごみの排出状況や、資源化可能物の混入量の把握を行い、今後の廃棄物減量の施策検討の基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査の概要

(1) 家庭ごみ

①調査対象

共同住宅が多い町、公住が多い町、一戸建て住宅と高齢者世帯が多い町、若年世帯が多い町、戸別収集地区を対象に市内5町を選定した。

R7年度の調査対象地区はR6年度と同じとしたが、次期焼却処分場整備等に向けた基礎データを蓄積していくため、燃やせるごみの調査回数を増加させた。

	一戸建て住宅と 高齢者世帯が多い町	公住が多い町	戸別収集地区	共同住宅が多い町	若年世帯が多い町
R6	栄町・寿町	末広町	勇払	拓勇西町	ウトナイ北
R7	栄町・寿町	末広町	勇払	拓勇西町	ウトナイ北

②調査方法（戸別収集は若干異なる）

- ・燃やせるごみ・燃やせないごみ

分析対象となる町のごみステーションのうち、指定した15カ所から指定ごみ袋5ℓ、10ℓ、20ℓ、30ℓ、40ℓと、有害ごみ・おむつ類をそれぞれ平均的な量で合計100kg程度になるように回収する。

- ・資源物（缶・びん・ペットボトル・紙パック）

1ヶ所のステーションに出ているごみの袋を全て回収する。

③分析項目

- (1) 厨芥類（調理くず、食品ロス） (2)布類 (3)木類 (4)ゴム・皮革類 (5)紙おむつ (6)プラスチック類
(7)紙類 (8)マスクなどのウイルス感染の可能性があると思われるもの (9)スチール缶 (10)アルミ缶
(11)ペットボトル (12)びん類 (13)有害ごみ (14)その他不燃物

(2) 事業系ごみ

①調査対象

沼ノ端クリーンセンターへ搬入された事業系ごみを対象とする。

②調査方法

事業系ごみの搬入ピット内に堆積している廃棄物を攪拌し、100kg程度を分析用試料とする。

③分析項目

- (1)厨芥類（調理くず、食品ロス） (2)紙類 (3)布類 (4)木類 (5)ゴム・皮革類 (6)アルミ缶 (7)スチール缶
(8)びん類(9)ペットボトル (10)プラスチック類（個人消費のもの） (11)産業廃棄物

3. 家庭ごみの分析結果

(1) 燃やせるごみ

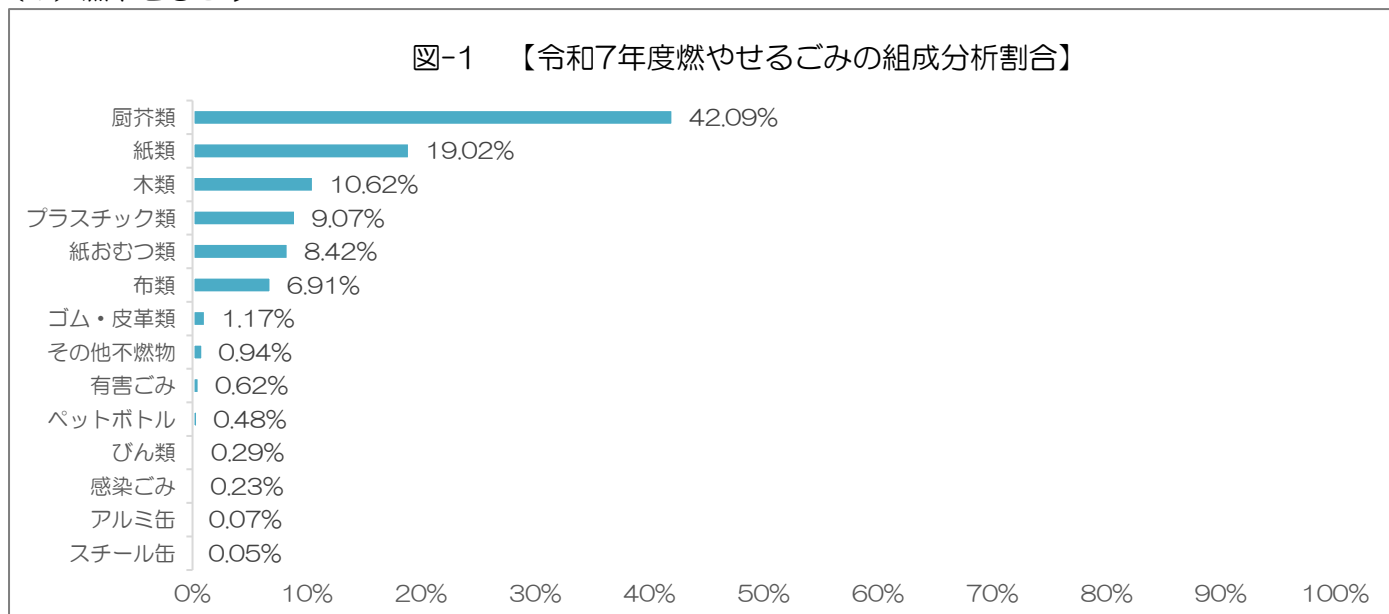
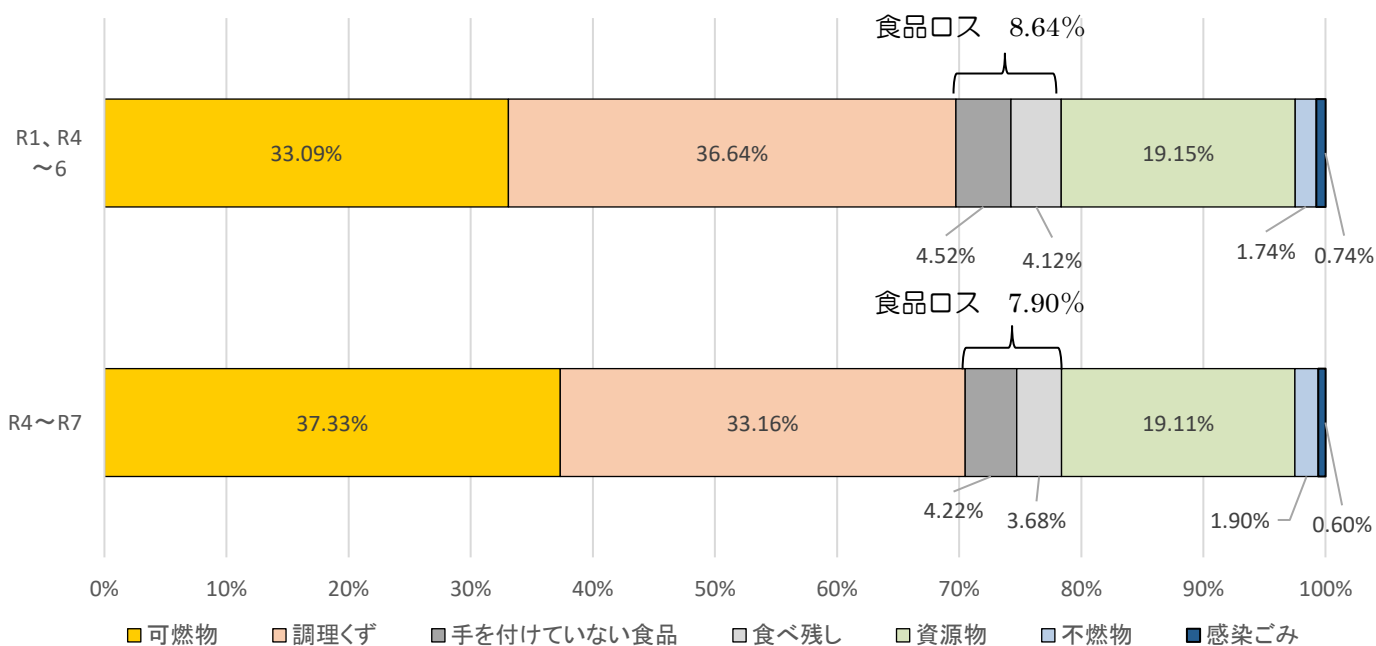


図-2 【過去4年間平均比較】



令和7年度燃やせるごみの分析結果は、厨芥類の割合が42.09%で最も高く、次いで紙類19.02%、木類10.62%という結果となった。

過去4年間平均比較では、調理くずの割合が36.64%から33.16%へ、食品ロスが8.64%から7.90%へ、感染ごみの割合が0.74%から0.60%に減少した。

不燃物の割合は1.74%から1.90%へとわずかに増加した。

また、食品ロスの内訳項目である手を付けていない食品、食べ残しの両項目ともに減少した。

(2) 燃やせないごみ

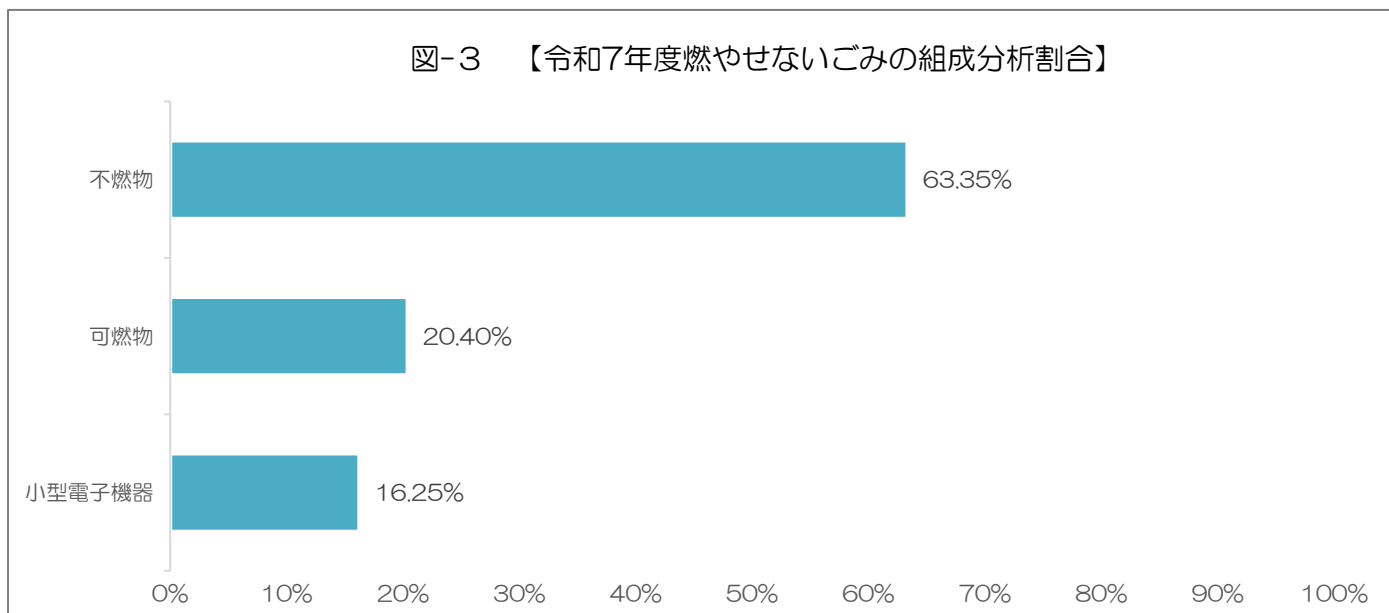
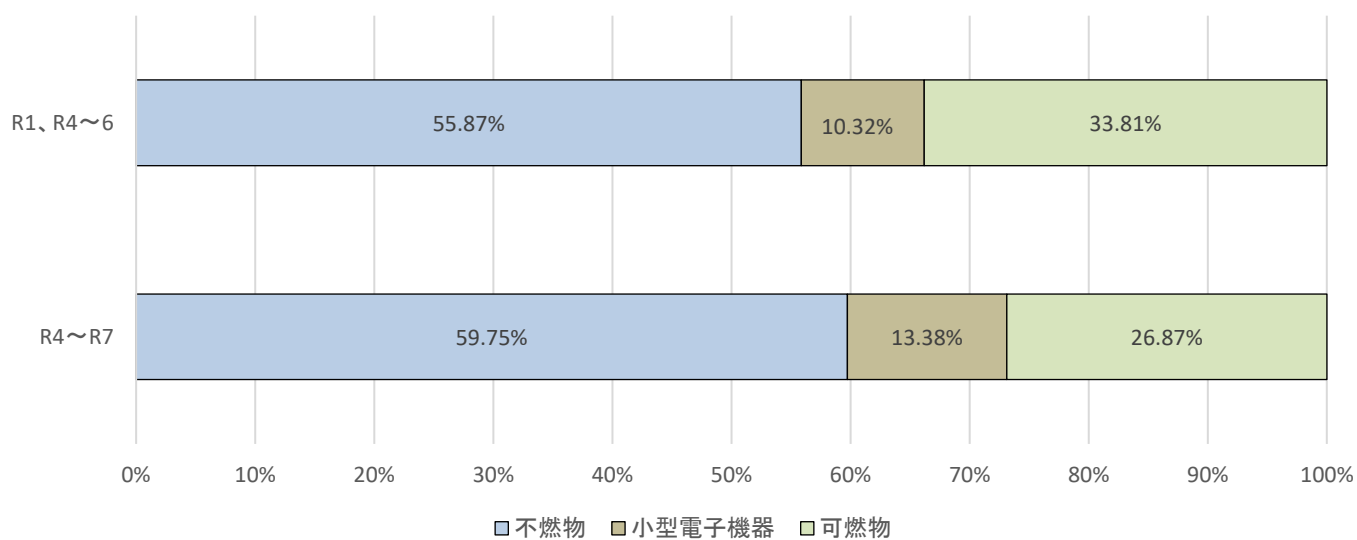


図-4 【過去4年間平均比較】



令和7年度燃やせないごみの組成分析結果は、その他の不燃物が63.35%、次いでプラスチック類が20.40%となった。

過去4年間平均比較では、不燃物については55.87%から59.75%と増加し、小型電子機器の割合も10.32%から13.38%へ増加した。

割合が減少したのものとしては、可燃物の割合が33.81%から26.87%へ減少した。

(3) 資源物（缶・びん・ペットボトル・紙パック）

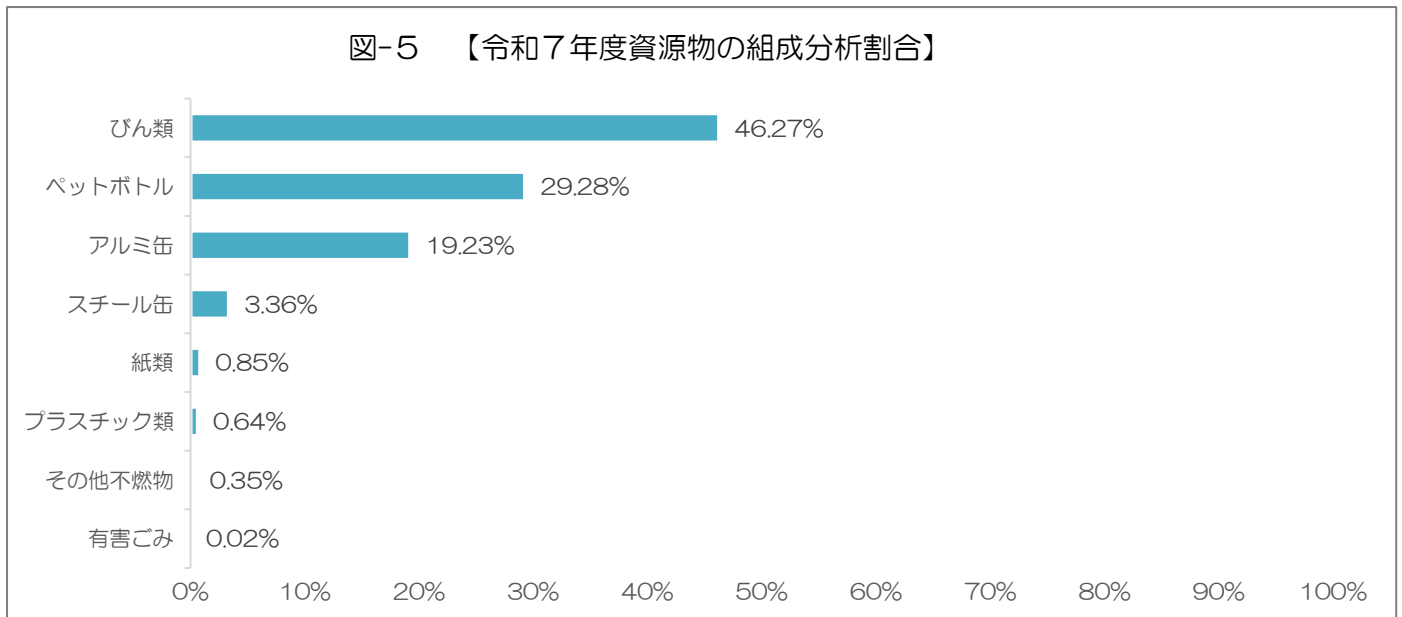
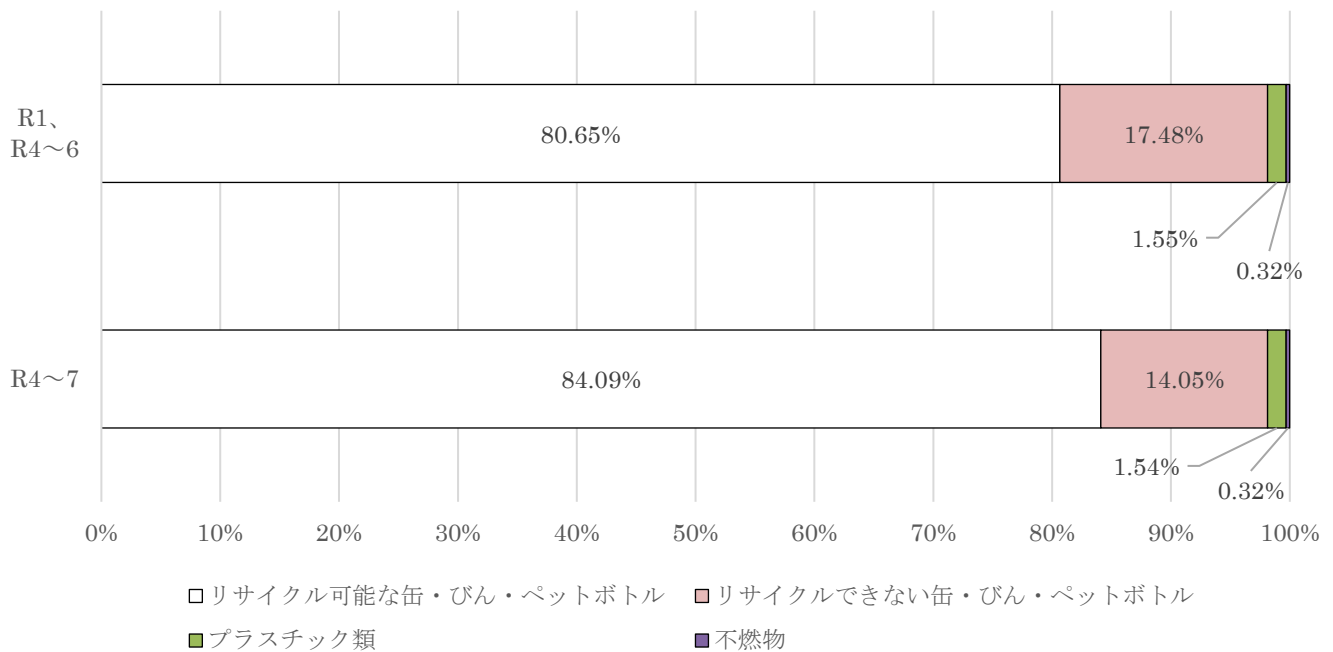


図-6 【過去4年間平均比較】



令和7年度資源物の分析結果は、びん類が46.27%、次いでペットボトルが29.28%となった。

過去4年平均を比較すると、リサイクル可能な缶・びん・ペットボトル・紙パックの割合が80.65%から84.09%に増加した。また、リサイクルできない缶・びん・ペットボトル・紙パックが17.48%から14.05%へ減少した。

4. 事業系ごみの分析結果

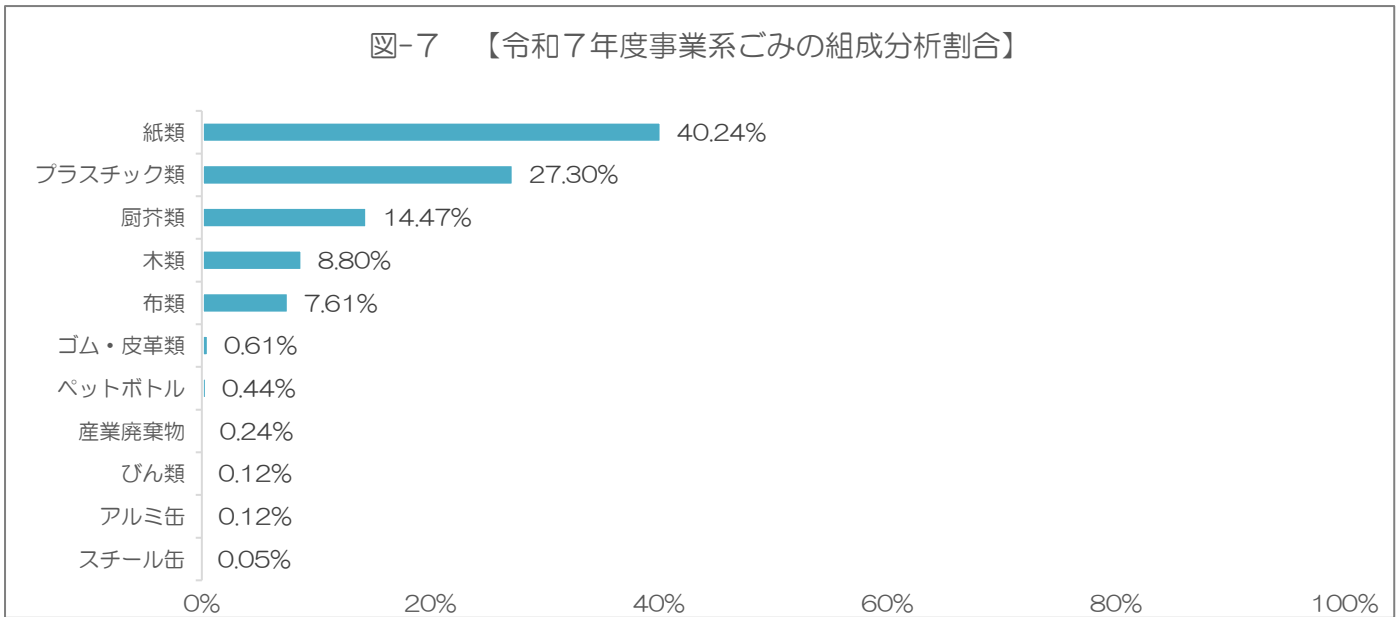
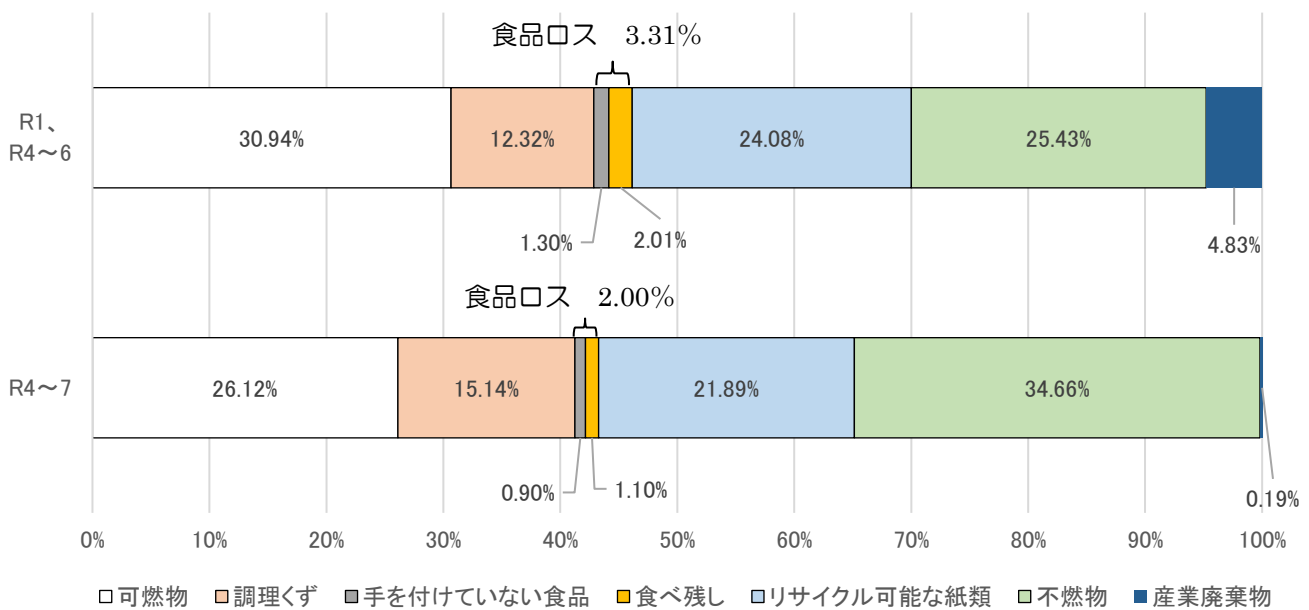


図-8 【過去4年間平均比較】



令和7年度事業系ごみの組成分析結果は、紙類が40.24%、次いでプラスチック類が27.30%となった。過去4年平均を比較すると、食品ロスの内訳項目である食べ残しが2.01%から1.10%に減少し、手を付けていない食品が1.30%から0.90%へ減少した。

比較的大きく変動した項目では、不燃物が25.43%から34.66%へ増加し、産業廃棄物が4.83%から0.19%へ減少した。

5. まとめ

【家庭ごみについて】

●過去 4 年間平均の内訳比較について

- ・燃やせるごみの可燃物の割合が増加し、調理くず及び食品ロスの割合が減少した。
- ・燃やせないごみの不燃物の割合が増加し、可燃物の割合が減少した。
- ・資源物のリサイクル可能な缶・びん・ペットボトルの割合が増加し、リサイクルできない缶・びん・ペットボトルの割合が減少した。

●過去 4 年間平均の内訳改善点・課題点について

- ・燃やせるごみの可燃物の割合が増加し、調理くず及び食品ロスの割合が減少したので、分別意識が高まっていることが窺える。
- ・燃やせないごみの不燃物の割合が増加し、可燃物の割合が減少したので、分別意識が高まっていることが窺える。
- ・資源物について、リサイクル可能な缶・びん・ペットボトルの割合が増加し、リサイクルできない缶・びん・ペットボトルの割合が減少したので、分別意識が高まっていることが窺える。

【事業系ごみについて】

●過去 4 年間平均の内訳比較について

- ・調理くず及び不燃物の割合が増加し、可燃物及びリサイクル可能な紙類の割合が減少した。

●過去 4 年間平均の内訳改善点・課題点について

- ・調理くず及び不燃物の割合が増加し、可燃物の割合が減少したので、分別意識が薄まっていることが窺える。

【今後の改善策】

- ・家庭ごみ（燃やせるごみ、燃やせないごみ、資源物）については、分別意識が高まっており、引き続き適切な分別に関する周知を行っていく。
- ・不適正の割合が多かった地区については、町内会等を通じて指導を行うことを検討する。
- ・事業系ごみについては、事業系廃棄物の説明会に積極的に赴く等、企業に対しても分別意識を醸成していく必要がある。また、違反が改善しない場合は、分別処理の説明会を開催したり、展開調査を行う等、厳しい対応を行うことを検討する。